

キャラクター名 天花寺愛美	プレイヤー名
------------------	--------

シンドローム	ノイマン ノイマン	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプション		年齢	17歳	性別	女
覚醒	無知	衝動	飢餓	初期侵食率	31%
出自	天涯孤独	経験	記憶喪失	邂逅	慕情

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	0	1	0			1	行動値	8
感覚	0	0	0	1		1	(非装備時)	8
精神	6	0	0			6	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
拳銃	射撃	6r-1		3		例のFHが持たせた物。何の因果か戻ってくる。
ポルトアクションライフル	射撃	6r		8		マイナー使用で射撃達成値+5 同エンゲージ不可 理緒くん脅したお下がり。
情報収集						情報をアレクトールと金で抜いた

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
情報収集チーム	
思い出の一品	
携帯電話	

合計装甲:	0	合計回避:	0
-------	---	-------	---

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス:賢者の石	P	N		
Dロイス:想い人	P	N		
桜庭理緒	P 純愛	N 不安		
PC4 月城悠希	P 感服	N 劣等感		
烏間九郎 ※昇華	P 便利	N 力の敵(偉大な戦士)		
PC3 ケルベロス	P 便利	N 隔意		
ガラティア	P 執着	N 殺意		

最大財産P:	34	残り財産P:	4
--------	----	--------	---

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:ノイマン	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: C値-Lv(下限7)								
コンバットシステム	5	3	メジャ/リア	-	-	効果参照	-	
効果: 判定+ [LV+1] D、射撃選択								
コントロールソート	1	2	メジャー	武器	-	効果参照	-	
効果: 判定を【精神】で行う、射撃選択								
勝利の女神	2	4	オート	視界	単体	-	100%	
効果: 判定の達成値を+[lv×3] ラウンド1回								
ブラックマーケット	3	-	常時	至近	自身	-	-	
効果: 常備化ポイントを+[Lv×10] 侵食率基本値+2								
マルチウェポン	1	3	メジャー	武器	-	白兵/射撃	-	
効果: 二つの武器の攻撃力を合計 達成値を [5-LV]								
零距离射撃	2	2	メジャー	至近	-	射撃	-	
効果: 射撃攻撃のダイス+LV個、同エンゲージ不可を無効								
プロファイリング	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 名探偵愛美ちゃん 理緒くんの浮気にもすぐ気付くゾ								
写真記憶	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 瞬間記憶 嫌な物も忘れられない難儀な能力								
暗号解読	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 天才 学校の問題とかも解けちゃう								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

至って普通の少女だった天花寺愛美。彼女の日常が変わってしまったのは、彼女が14歳になった頃。
 どこから嗅ぎ付けたのか、彼女の体内に眠る賢者の石の存在を知り、FHに誘拐される。
 幸い大事に至る前に、付近のUGNイリーガルによってセルは鎮圧、回収されたが、賢者の石の扱いで意見の割れた当時のM市UGNは、臭いものには蓋の精神で愛美の記憶を独断で消去(本部への報告はせず)、両親には警察から事故死として通達し、彼女は同名の新しい戸籍で生活をする事となる。
 彼女は事故(として扱われた)前後の記憶を失い、自分を隠したUGNの担当から、事故によって家族を失ったこと、自分だけが奇跡的に助かったこと、そして今後の生活は加害者側が保証すると言っていることを聞かされた。
 UGNとしては、そのまま適当なオーヴァードを保護者扱いとして監視に付ける算段だったが、既にノイマンシンドロームを発現していた彼女は直感的にその裏の意図を察知。
 資金援助だけを受け、一人暮らしを希望することで、実験動物扱いから逃れることに成功した。
 尚、この企てに賛同した以前のM市支部関係者は、愛美が中学を卒業する前に事態が露見、全員然るべき措置を取られた。
 高校入学後は、無意識的に発現する異能のおかげで勉学にも人間関係にもさしたる苦労はなく、充実した毎日を送れているようである。

先日の入院以降、どうも妙な夢を見るが増えた。
 怒号、炸裂音、激しい雷光、怖ろしい物が過ぎては消え過ぎては消えていく。
 逃げ出したいのに足は動かず、手はまっすぐ前に伸びている。
 ――助けて、と叫ぶ声は音にならない。
 そんな彼女を優しく抱きしめ、背に庇って立つ彼。
 「――愛美は僕が守る！」
 かろうじて見える横顔は平時とは全く違った厳しい眼差しをしていて、そこで決まって彼女は目覚める。
 何やらファンタジックな世界観で、血まみれの理緒にお姫様のような扱いをされていたことは確かに憶えており、高校二年にもなって夢見る内容にしてはちょっと恥ずかしい。
 が、たかが夢とはいえ、流石に何日も続くと多少気にかかっては来る。